

セルカークカレッジ 語学研修 参加報告書

外国語学部国際関係学科3年（参加当時）

私は、8月25日から9月21日まで約1か月間カナダに語学研修を目的として滞在していた。現地時間25日の午前中にカナダのバンクーバーにつき、その日1日はバンクーバーを観光した。次の日に、バンクーバー国際空港からキャッスルガールの空港まで約1時間飛行機で移動した。空港に着いてすぐ、迎えに来てくれていたホストファミリーに会って自己紹介とあいさつをした。そのあとホストファミリーの家に行って、生活するうえでのルールや学校へ行くためのバスの乗り方や最寄りのバス停に行くための道順などを教えてもらった。セルカークカレッジのオリエンテーションはキャッスルガーに着いた日を含めて2日後から始まったため、それまでの間家で映画を見たり、家の近くにあるお店に行ったりした。日本と同じサブスクでも見られる作品のラインナップやお店や道路の雰囲気も日本と違っていたため見るものすべてが新鮮だった。

大学のオリエンテーションは3日間行われた。その間 writing、reading、speaking のテストがあり、その結果に応じてクラス分けされた。オリエンテーションのある期間はお昼くらいで学校が終わったため、放課後は友達とキャッスルガールの街を探索した。日本でも見慣れているお店でさえ外国のものは内装や売られているものが違うため、その違いを見るだけでも楽しかった。ダウンタウンにいて鉄道博物館を見学したり、スーパーで見たことない飲み物や食べ物を買ってみたりして楽しんだ。3日間のオリエンテーションの後の休日は、バスで隣町まで行ったり、友達とピクニックに行ったりした。隣町のほうがキャッスルガーより雑貨屋が多く買い物が楽しめる場所だった。また、その街にある教会にも行った。2つの教会に行ったのだが、内装が異なっていてその違いを比べたり、宗派の違いに考えを巡らせたりすることが楽しかった。友達とのピクニックでは、キャッスルガールの雄大な自然を眺めながら、お菓子や果物をたべて、映画をみたり、話したりして有意義な時間を過ごした。

授業が始まる前の日に、新入生歓迎会があった。そこでは、綱引きや玉入れなど様々なアクティビティが用意されていた。お昼ごはんとして、ホットドッグとスナックも用意されていて、アクティビティもお昼ご飯も楽しみながら友達との親交を深めた。次の日から授業がスタートした。1週間のうち、reading の授業が4コマ、writing、communication、grammar の授業が2コマずつあった。それに加えて、選択授業としてカナダに暮らす人々や動物について学ぶ授業と、コマ撮りで映像を作る授業が1コマずつあった。オリエンテーションのときにやったテストに応じてクラス分けされているため同じくらいのレベルの学生とお互い学びあいながらそれぞれの能力を高めることが出来た。すべての授業を通して、リスニング力とスピーキング力が常に必要とされるため、その二つのスキルを向上させたいと思っていた私としてはすごく良い機会だった。大学の授業だけでなく、ホストファミリーとのコミュニケーションやお店に入ったときなど普段の生活の中でも、リスニング力とスピーキング

力は常に必要とされるし、さまざまな国から来た人の英語を聞くことになるため、個人的にはリスニング力がこの1か月で一番伸びたと感じている。選択授業では、カナダに昔から住んでいる民族について博物館へ行って展示物を見たり、管理者の話の聞いたりして、その人たちの文化や習慣などとても興味深い内容を学ぶことができた。また別の週のその授業では、カナダに住む熊やエルクなどの動物について学んだ。実際に毛皮を触ってみたり、熊の足を間近で見て熊の大きさを実感したりした。キャッスルガーはよく熊がでる地域だから、遭遇した時の対処方法や生態などを学んだ。

2回目の週末は、隣町でクラシックカーの大きなイベントがあった。レトロな車がたくさん道路に並べられており見るだけで楽しめた。その次の日は、ホストファミリーの所有しているバギーを使わせてもらった。心地よい太陽の光と風、過ごしやすい気温の中、キャッスルガーの自然をバギーで走るのはとても気分が良かった。9月の中旬くらいになると、近くのスケート場が使えるようになったため、友達とスケートをしに行った。また、地元チームのアイスホッケーの試合も観戦できる日があるため、それも友達と見に行った。外国の試合観戦の雰囲気などを味わえ、今まで知らなかったアイスホッケーの魅力にも気づくことができた。



ホストファミリーが出してくれた食事の中で、カナダの料理もちろん出てきたが、日本の料理である巻きずしとみそ汁が出てきた。どちらも日本のものに味が近く、とてもおいしかった。ほかにも、庭にあるかまどでソーセージを焼いてホットドッグにして食べたりした。さらに食事の面でいうと、日本にもあるファストフードチェーン店でもメニューが日本のものと違っていたり、カナダ限定のメニューもあつたりしたため、それを試してみるのもすごく楽しかった。スーパーなどで見つけた不思議な見た目のお菓子や、味が気になる食べ物を友達とシェアするのも楽しかった。

最後の週末は、学校の先生の家でパーティーがあった。各自食べ物や飲み物を持ち寄るタイプのパーティーで、おいしいものを飲み食いしながら友達とコミュニケーションをとって楽しんだ。次の日は、映画館へ映画を見に行った。家のサブスクで見る映画と違って字幕がないため、リスニング頼りになるのだが、私が見た映画は映像から内容が伝わってくるものだったため、すべての英語が聞き取れなくても十分に楽しめた。シートもリクライニング

付きで広々としているため、日本の映画館よりもリラックスして映画を見ることができた。そして、先生たちが学校での最後の授業時間を使ってパーティーを開催してくれた。そこで卒業証書もらった後、ホットドッグやマッシュマロをたべながらクラスメイトとの最後のコミュニケーションを楽しんだ。

放課後は毎日、友達とキャッスルガーや隣町の探索へ行った。ダウンタウンのお店を見て回るだけでなく、家の近くを流れている川へ行ったり、路面電車で湖のある公園へ行ったり、キャッスルガーの自然を全身で感じてきた。毎日天気が良く、夏なのに涼しく過ごしやすい気温で、雄大な自然に常に触れることができるキャッスルガーは1か月間生活するうえで適した場所だと感じた。さらに、様々な国からきた人たちが暮らしているため、いろんなアクセントの英語に触れることができる。日本での大学生活でも同じことがいえるが、自分から行動することがたくさん体験をすることにつながると実感した。また、今回の語学研修を通して自分に自信がついたように感じる。英語力の面ではもちろんだが、普段生活するうえでも自分が精神的に成長したのではないかと感じている。私は、洋画を見ることが好きなのだが、自分が見てきた映画の中の景色がそのまま目の前に広がっていることに対する興奮や、北九州市立大学の授業で学んできた知識と重なる部分がカナダでの生活の中で多くあったことなど、わくわくする要素や学びがたくさんあり、人生で一番思い出に残る夏休みを過ごすことができた。

